

職員リレーエッセイ

< 私の体験談 >

ニコニコホーム 世話人 徐 能美

ある日、実家の部屋で一人しているとチャンチャラン♪チャンチャチャン♪と突然オルゴールの音色が聞えてきた。「オルゴール・・・昔、持っていたけど今も部屋にあったっけ? あっ、収納BOXに入れてある」。

ふと、そんなことが頭をよぎった。

私以外誰もいない部屋で突然なったオルゴール。怖さが先に立ちそうなのに不思議と怖いという感情はわいてこなかった。

階下にいる母に声をかけた。「お母さん、今部屋で急にオルゴールが鳴った。」すると母が「あー・・・もうすぐお婆さんの命日だね。今年も会いに来てくれたのかな。」言われてみればもうすぐお婆さんが亡くなって2年か・・・

あの曲、昔お婆さんの家にあったのと同じ曲・・・

お婆さんはいつも明るくてざっくばらんな人だった。

私たちは気が合ってたまに二人で出かけたりもした。

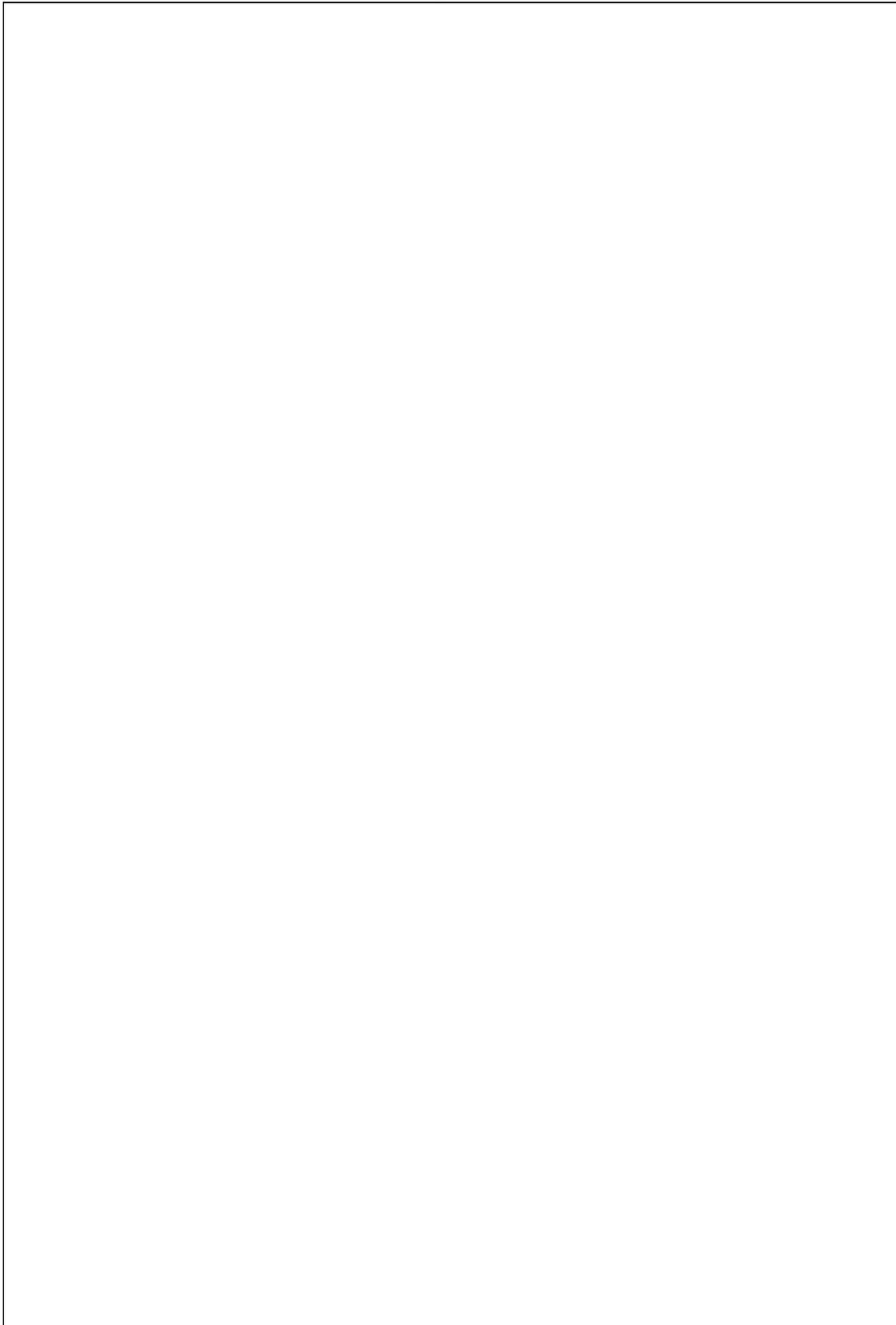
そんな叔母は長く癌と闘っていた。最後に自宅療養を選んだので、私も亡くなる前日に叔母にあうことができた。長い闘病生活から解放された叔母の顔が、とても安らかだったことが今も昨日のこのように思い出される。

叔母が亡くなって3か月程経った頃、叔母は夢の中で私に会いに来てくれた。夢の中で私と叔母は川にへだてられていたが、叔母が私にむかって大きな声で「ぬんみちゃんありがとう。楽しかったよ。」と言ってくれたところで目が覚めた。一周忌には誰もいない部屋にノックする音が響いた。今年もオルゴール。イタズラ好きの叔母が来年はどんなサプライズを仕掛けてくれるのか今から楽しみだ。

こんな体験をした私は、人と人は必ずどこかで繋がりを持っていると感じ、これからもたくさんの人との繋がりを大切にしていきたいと感じながら日々の生活を大切にしていきたいと思った。



次回は、ニコニコハウス鶴里・石川修平さんに繋がります。



低料第三種郵便物承認

平成 年 月 日発行（増刊）

A J Uニコニコハウス通信（第 303 号）（ 5 ）